

2014年

携帯サイトへGo!→
携帯で教室便りが見られます



教室だより 4月号

子どものほめ方を考えてみましょう

進級・進学はこの時期、お子さまの成長をさらに促すような、効果的なほめ方を考えてみませんか。例えば、「ひとりで上手に着替えられるようになったね」とか「公文の宿題、忘れなくなったね」のように、「できたこと」を具体的な言葉にしてあげると、子どもたちは受けとめやすいようです。

「自分はこれができたんだ」と確認することで「次はもっとできるかな」と挑戦する意欲が生まれます。

公文の学習の中には、お子さまをほめてあげることができる具体的なチャンスがいっぱいあります。

それから、もっとも相手にヒットするのは、即時フィードバックだと言われています。

「おっ、これは我ながらけっこうイケてるかも!」と子どもが感じた瞬間に、そのポイントでほめる。

「スゴい!」「そう!」「それ!」という短い言葉でも、子ども自身の「やった!」という感覚とシンクロすることで、十分な威力を発揮してくれるのではないかと思います。

子どもたちが「できた(できるようになった)」という事実を、ジャストタイミングで、合いの手を入れるように、評価してあげる。大好きなご両親からの「ちゃんと見てたよ」というサインは、お子さまにとって何より心強いエールです。これを積み重ねることで、親子の信頼関係は深まり、お子さまの自己肯定感は蓄積されていきます。

くもんの学習を、ぜひ親子のいい関係づくりにお役立てくださいね。

公文式の創始者・公文 公(くもんとおる)先生の言葉より

“いちいち教わらなくてもできる子に—「自学自習」が目指すもの”

公文式の教材は、自分で読んで、自分で考えて、自分で書いて進んでいくようになっています。私たちは、この学習方法を「自学自習」と呼んでいます。この「自学自習」の方式だからこそ、一人ひとりが自分に“ちょうど”のところを、それぞれ個人別に、自分のペースで進んでいくことができるのです。自分の目と頭と手を使って、問題を解き進んでいく中で「読み、書き、計算」の知的技術を身につけ、身につけたことを基盤にしながら、さらに次の新しい学習内容を自分の力で学んでいくのです。このようにして、自ら学ぶという習慣がついてくると、学校ではまだ習っていない内容でも、それまでに培った力で、次の段階に挑戦してみようという意欲もわいてきます。いちいち教わらなくても、自力で進んでいけるのだと知った時、子どもの瞳は輝きます。公文式が「自学自習」によって育成したいのは、そのような自信と挑戦力——自らの生きる道を、自ら切り拓いていこうとする、自立の精神なのです。

2014年 4月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

本市場教室日□

横割教室日△

「みんなの考え方は十人十色で、なかなか意見がまとまらない。」

くもん出版刊「四字熟語カード」より

「みんなに好きなくだものは何かと聞いたら、その答えは十人十色だった。」

十人十色

気もちや考え、好きなことなどが、人それぞれちがうということ。

◆たぐいの人がいれば、それぞれの好みがある。「十」はたぐいのこと。

今月のことわざ

*ゆき子の一言コラム

脳科学から見た子育て

☆「ひとり読み」はどうやってできるようになるの？

文字がスラスラ読めない子どもは、どのようにして文章を理解してスラスラ読めるようになっていくのでしょうか。京都大学霊長類研究所の中村克樹教授とKUMONとの共同研究の結果、1文字読みからスラスラ読みまで、4つの発達段階があることがわかりました。

発達段階	読み方の様子	読みの時間	内容理解	視線	先読み
1段階 (最も稚拙)	読み方が遅く、1文字ずつ読み、視線は読んでいる文字と同じペース。内容の理解はできていない。	遅い	×	1文字ずつ見る	×
2段階 (少し上達)	読み方が少し速くなるが1文字ずつ読み、視線は読んでいる文字と同じペース。内容は理解できるようになる。	↓	○	1文字ずつ見る	×
3段階 (かなり上達)	読み方がさらに速くなり、文章を単語などのかたまりでとらえられるようになるが、視線は読んでいる文字と同じペース。	↓	○	かたまりで見る	×
4段階 (最終段階)	読み方が速くなりスラスラ読め、視線は読んでいるところよりも先を見ながら読むことができる。	速い	○	かたまりで見る	○

子どもは1段階の1文字読みから最終段階である4段階までの過程を経てだんだんスラスラと読めるようになっていきます。ひとりで読めるようになるまでは焦らず温かく見守り、文字や文章に親しめるよう絵本の読み聞かせなどを活用しながらほめて伸ばして行ってほしいですね。

歌いかけ・読み聞かせのススメ

子どもたちが持つ能力には驚かされることがたくさんあります。知らない間にマネをしていたり、教えてもないことができるようになっていたり。子どもたちは日々、たくさんのことを身近にいるお母さんやお父さんから学びながら成長しているのです。子どもたちのこのすばらしい能力を、さらに伸ばすためには「ことば」による働きかけがオススメです。愛情あふれる親の気持ちを「ことば」を通じて伝えることはいろいろな効果をもたらします。

親から子へ、愛情あふれる「ことば」による働きかけで育まれるもの。それは、子どもが伸びるための土台となる「親子のきずな」です。自分以外の人と信頼関係を結ぶという行為はすべてにおいての土台となり、健やかな成長を促します。愛情あふれる「ことば」による働きかけを簡単に、そして確実にするなら歌いかけ・読み聞かせが一番。ぜひ、一日のうちの少しの時間でも、歌いかけ・読み聞かせで「親子のきずな」を強くし、学ぶ力をつけながら学びの土台を育ててほしいと思います。

お休みのときは電話でもメールでも結構ですので連絡をお願いします。

4月分の会計引き落としは3月28日(金)です。よろしく願いいたします。

(注)休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までに申し出下さい。